

「証券化市場の動向調査」

～ 2008 年度上半期の発行動向 ～

以下は、日本証券業協会及び全国銀行協会が毎月実施している「証券化市場の動向調査」(日本証券業協会ホームページ<<http://www.jsda.or.jp/>> 参照)について、2008 年度上半期(2008 年 4 月～9 月)の結果を取り纏めたものです。

図表データについては、別紙をご参照ください。また、参考として、「『証券化市場の動向調査』における項目毎の記載割合」を取り纏めています。

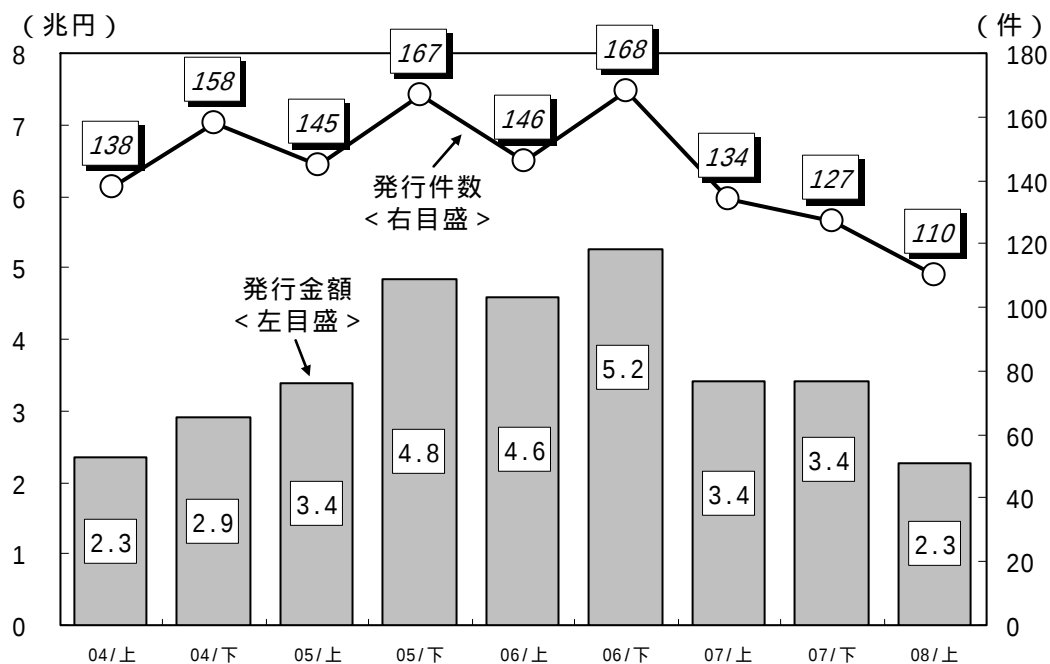
1. 証券化商品全体の発行動向

2008 年度上半期における証券化商品の発行金額は 2.3 兆円 となり、調査開始(04 年度)以来、半期ベースで最小の規模となった(図表 1)。

件数ベースでも、08 年度上半期(110 件)は、調査開始以来最小となった。

08 年度上半期における普通社債の発行金額(4.8 兆円)を大きく下回った。

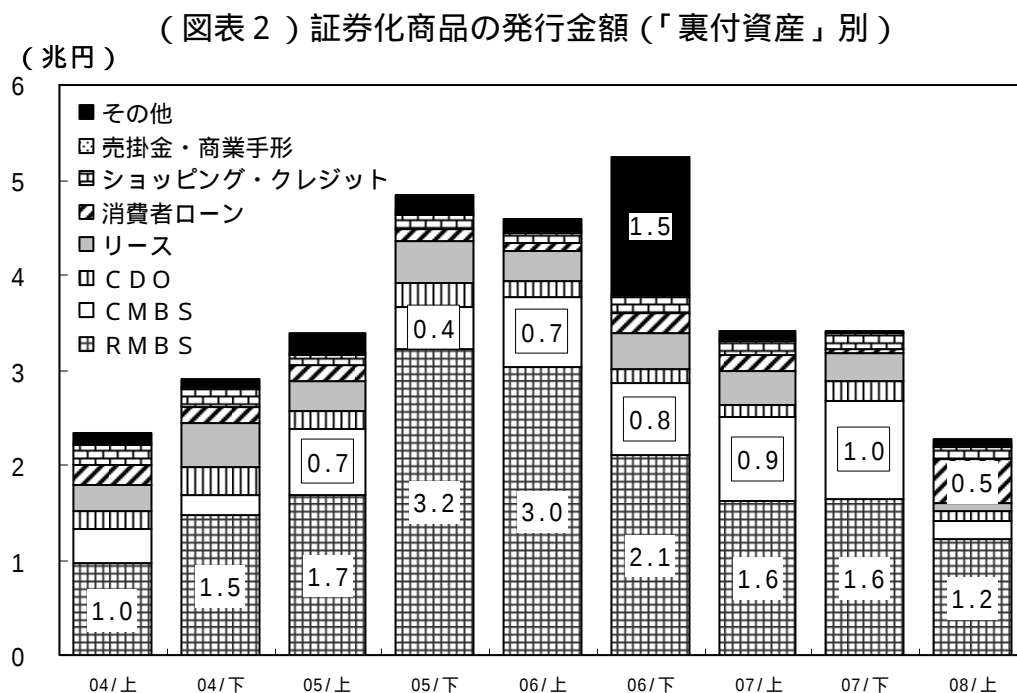
(図表 1) 証券化商品の発行金額、発行件数



2. 裏付資産別の発行動向

2008 年度上半期における証券化商品の発行金額を「裏付資産」別にみると、住宅ローン債権等を裏付資産とした「R M B S (Residential Mortgage Backed Securities)」が 1.2 兆円と最も多く、次いで消費者ローン債権等を裏付とした「A B S (Asset Backed Securities)」となった(図表 2)。消費者ローン債権 A B S は、大口(0.4 兆円)の発行案件がみられた。

商業用不動産担保ローン債権等を裏付とした「C M B S (Commercial Mortgage Backed Securities)」(0.2 兆円)は、上半期としては、調査開始以来最小の規模となった。



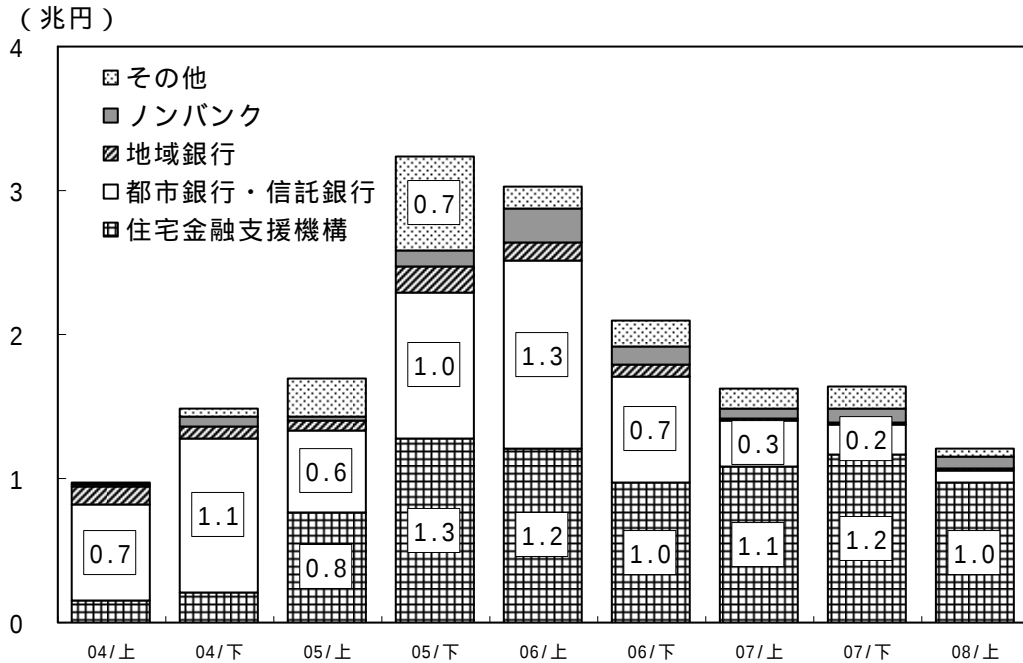
裏付資産の具体的な分類は、以下のとおり。

- 「R M B S」: 住宅ローン債権、アパートローン債権
- 「C M B S」: 商業用不動産担保ローン債権、商業用不動産
- 「C D O (Collateralized Debt Obligations)」: 企業向け貸付債権、社債、C D S 等
- 「リース」: リース料債権
- 「消費者ローン」: 消費者ローン債権、カードローン債権
- 「ショッピング・クレジット」: ショッピング・クレジット債権、オートローン債権
- 「売掛金・商業手形」: 売掛債権、手形債権
- 「その他」: 事業キャッシュフロー、診療報酬債権等

(1) R M B S

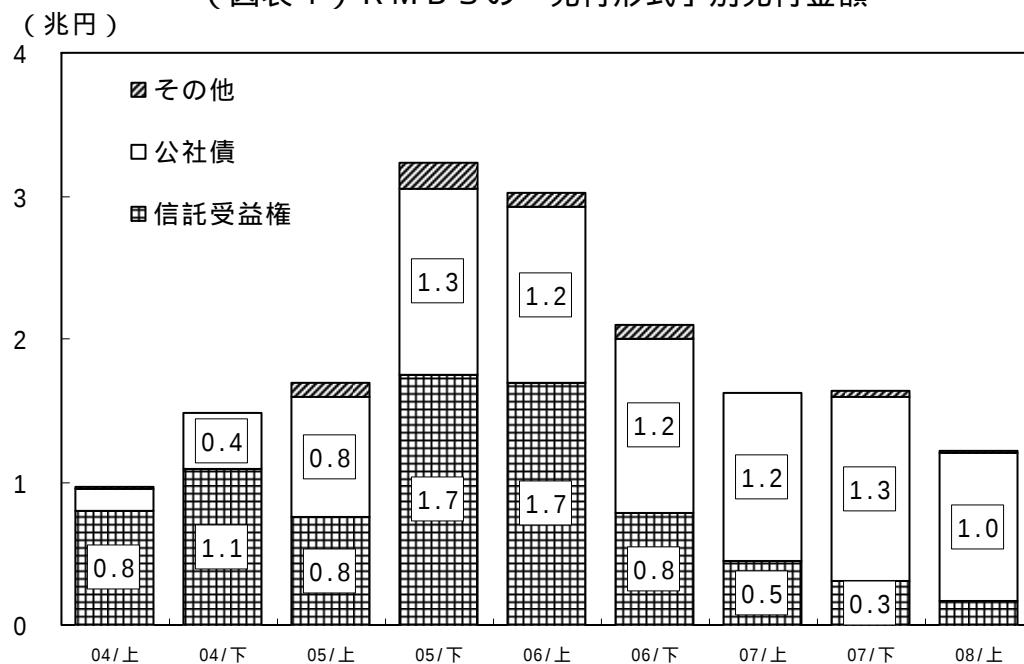
- ・ R M B Sの発行金額（1.2兆円）を「オリジネーター」別にみると、「住宅金融支援機構」（1.0兆円）が全体の79.7%を占めた（図表3）。

（図表3）R M B Sの「オリジネーター」別発行金額

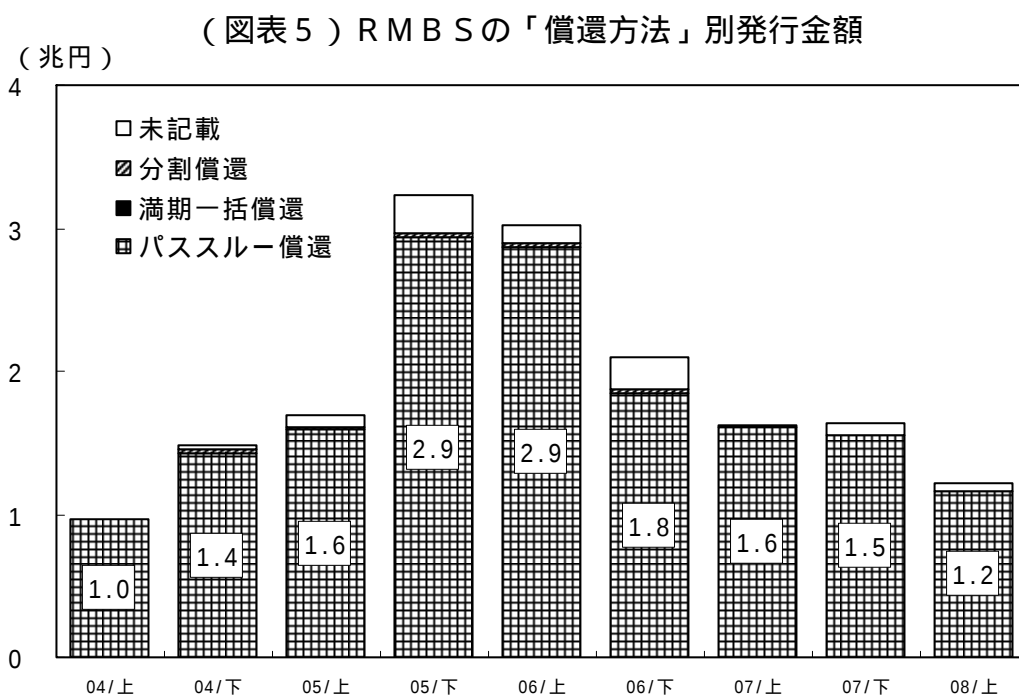


- ・ R M B Sの発行金額（1.2兆円）を「発行形式」別にみると、「公社債」（1.0兆円）が全体の84.7%を占めた（図表4）。

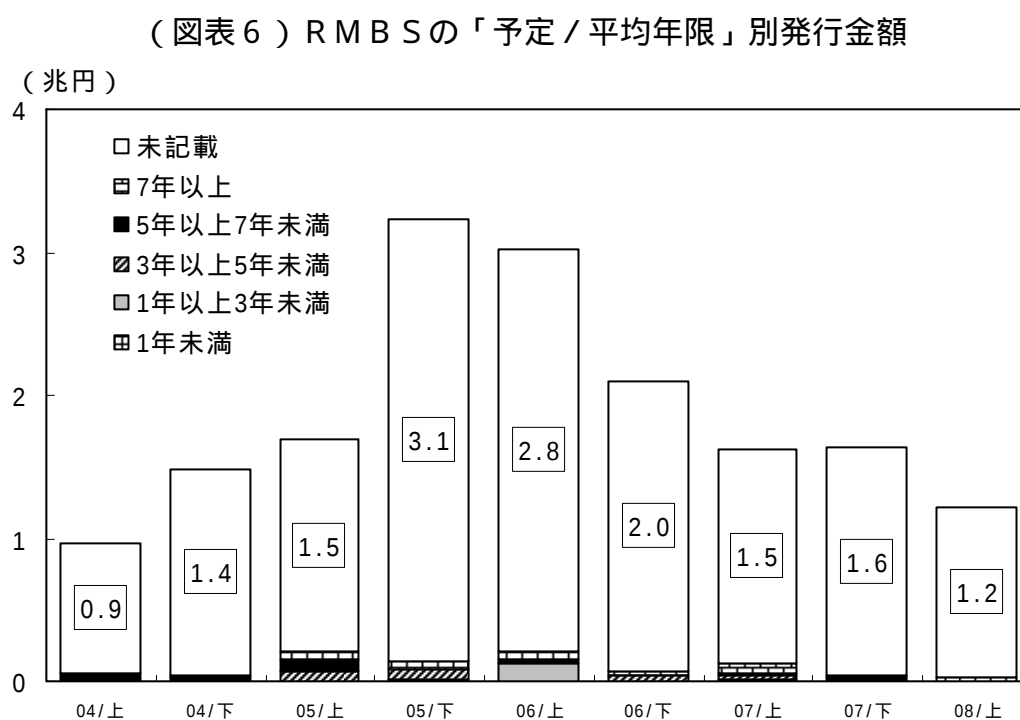
（図表4）R M B Sの「発行形式」別発行金額



- ・ R M B Sの発行金額（1.2 兆円）を「償還方法」別にみると、「パススルー償還（裏付資産の回収実績に連動して元本が償還される）」（1.2 兆円）が全体の 96.1%を占めた（図表 5 ）

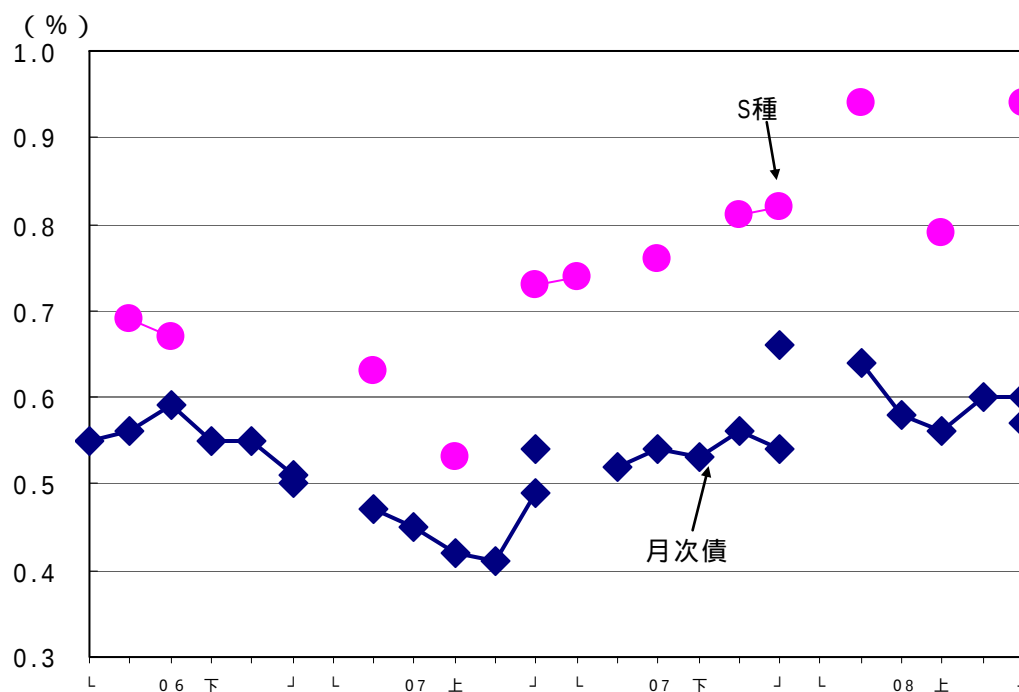


- ・ R M B Sの発行金額（1.2 兆円）を「予定／平均年限（満期一括償還の場合は予定償還年限。分割償還が行われる場合は平均償還年限）」別にみると、「未記載」（1.2 兆円）が全体の 97.3%を占めた（図表 6 ）



- ・ 住宅金融支援機構（旧住宅金融公庫）R M B S のローンチスプレッド（表面利率と、条件決定時の国債利回りとの差）をみると、08 年度に入り上昇し、その後はほぼ横這い圏内の動きとなった（図表 7 ）。

（図表 7 ）住宅金融支援機構（旧住宅金融公庫）R M B S のローンチスプレッド

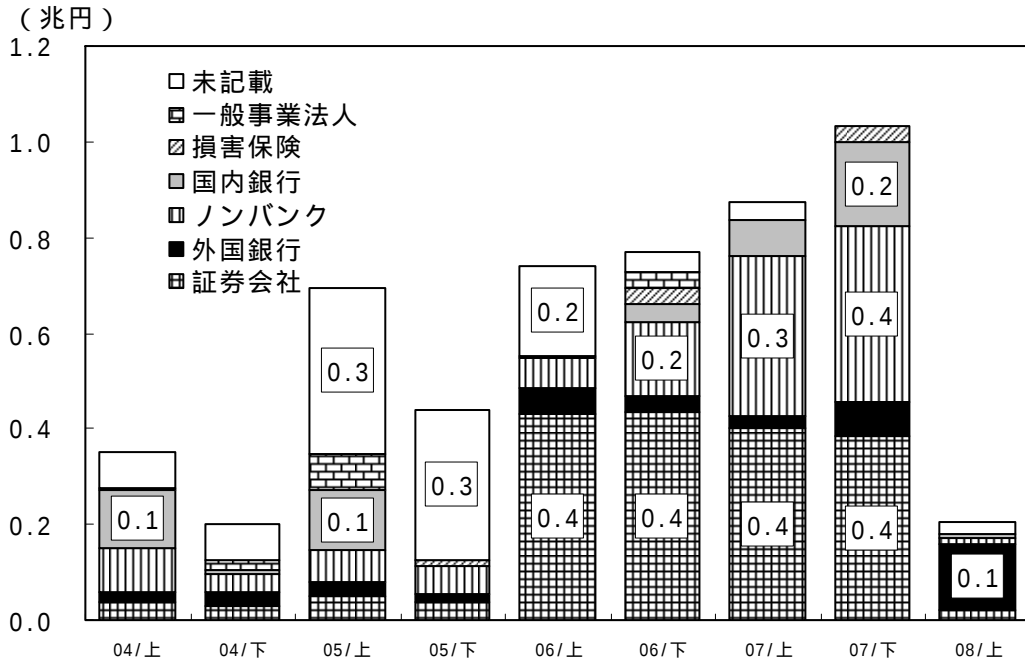


「S 種」は、旧住宅金融公庫が過去に直接実行した住宅ローンを証券化した債券。

(2) C M B S

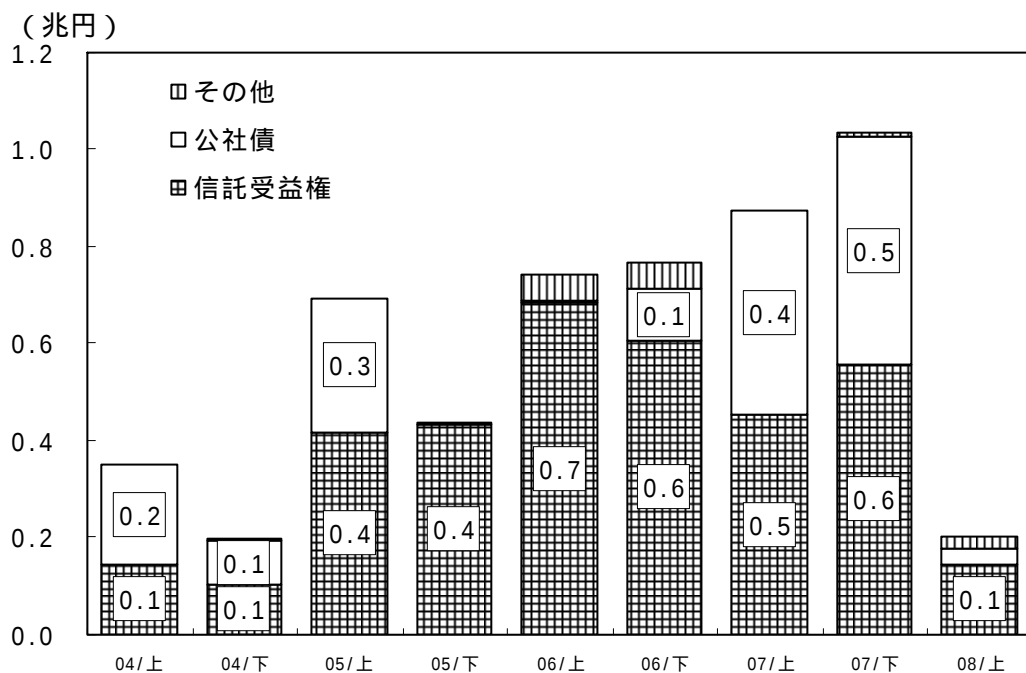
- ・ C M B Sの発行金額 (0.2 兆円) を「オリジネーター」別にみると、「外国銀行」(0.1 兆円) が最も多く、全体の 66.4%を占めた (図表 8) 。
「証券会社」(0.0 兆円) 「ノンバンク」(0.0 兆円) は大幅な減少となった。

(図表 8) C M B Sの「オリジネーター」別発行金額

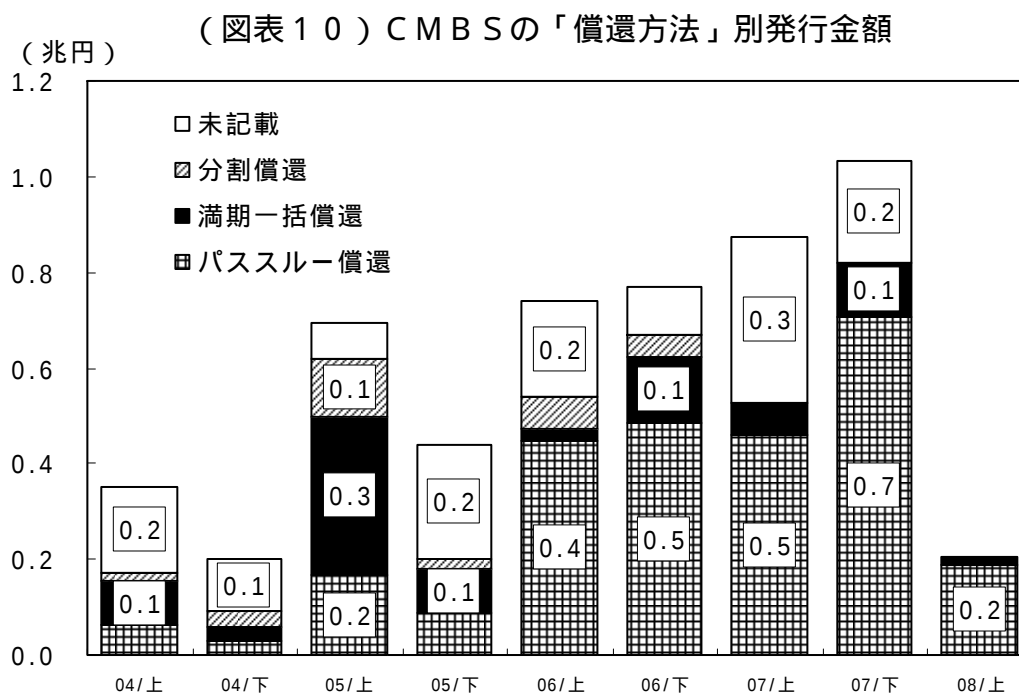


- ・ C M B Sの発行金額 (0.2 兆円) を「発行形式」別にみると、「信託受益権」が 0.1 兆円と全体の 71.6%を占めた (図表 9) 。

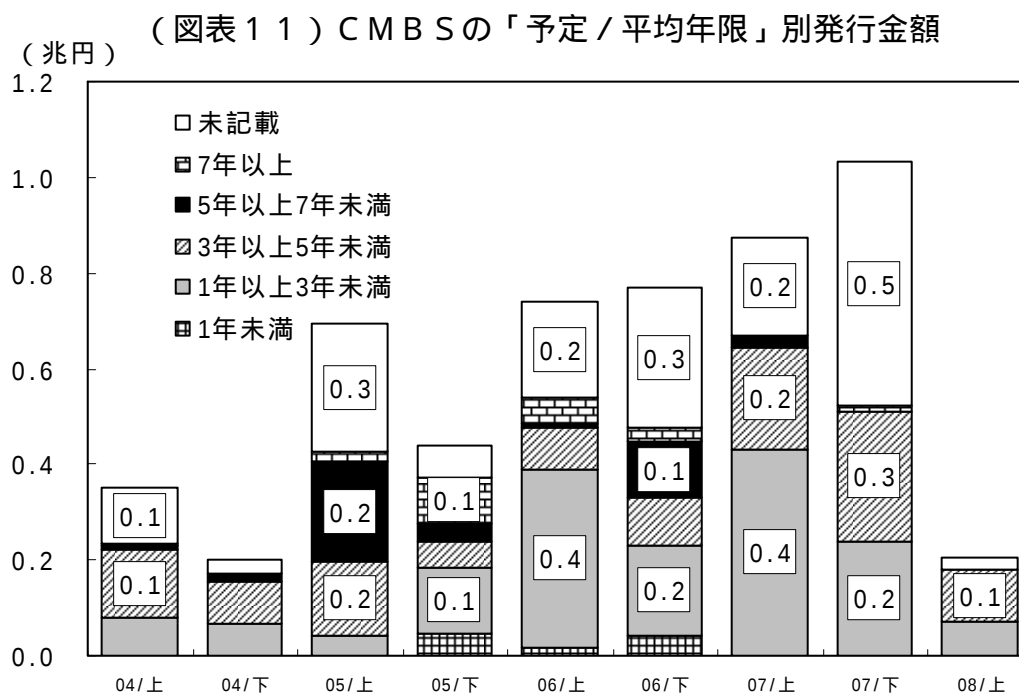
(図表 9) C M B Sの「発行形式」別発行金額



- ・ C M B S の発行金額 (0.2 兆円) を「償還方法」別にみると、「パススルー償還」が 0.2 兆円と、全体の 92.4% を占めた (図表 10)。



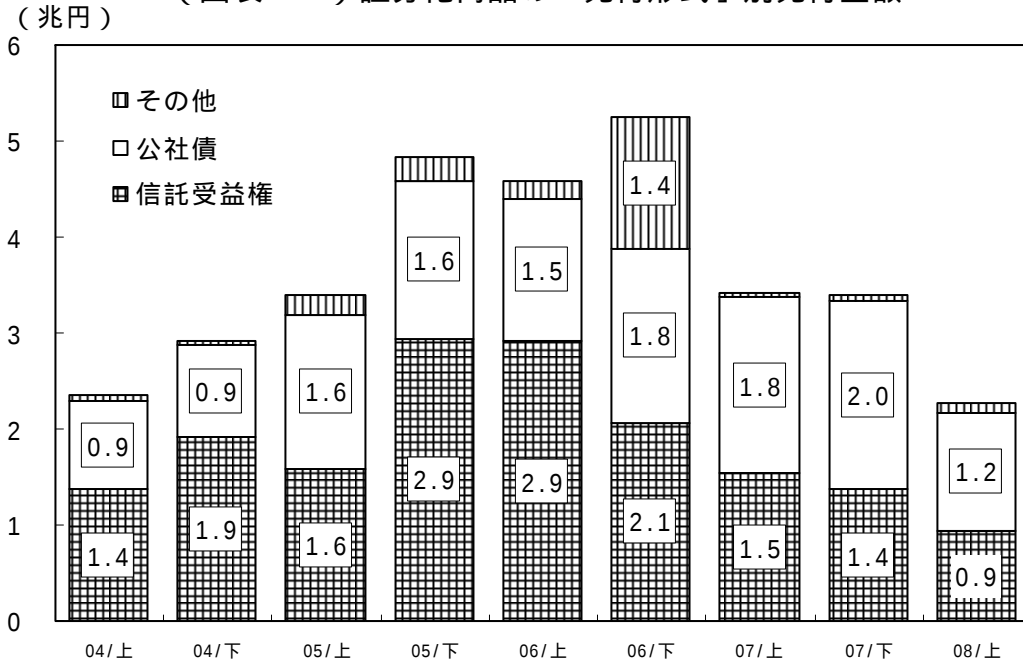
- ・ C M B S の発行金額 (0.2 兆円) を「予定 / 平均年限」別にみると、「3 年以上 5 年未満」(0.1 兆円) が最も多く (構成比 53.8%)、次いで「1 年以上 3 年未満」(0.1 兆円、同 33.9%) となった (図表 11)。



3．発行形式別の発行動向

- ・ 2008 年度上半期における証券化商品全体の発行金額（2.3 兆円）を「発行形式」別にみると、「公社債」が 1.2 兆円、「信託受益権」が 0.9 兆円となった（図表 1 2）。
うち住宅金融支援機構（旧住宅金融公庫）R M B S が 1.0 兆円。

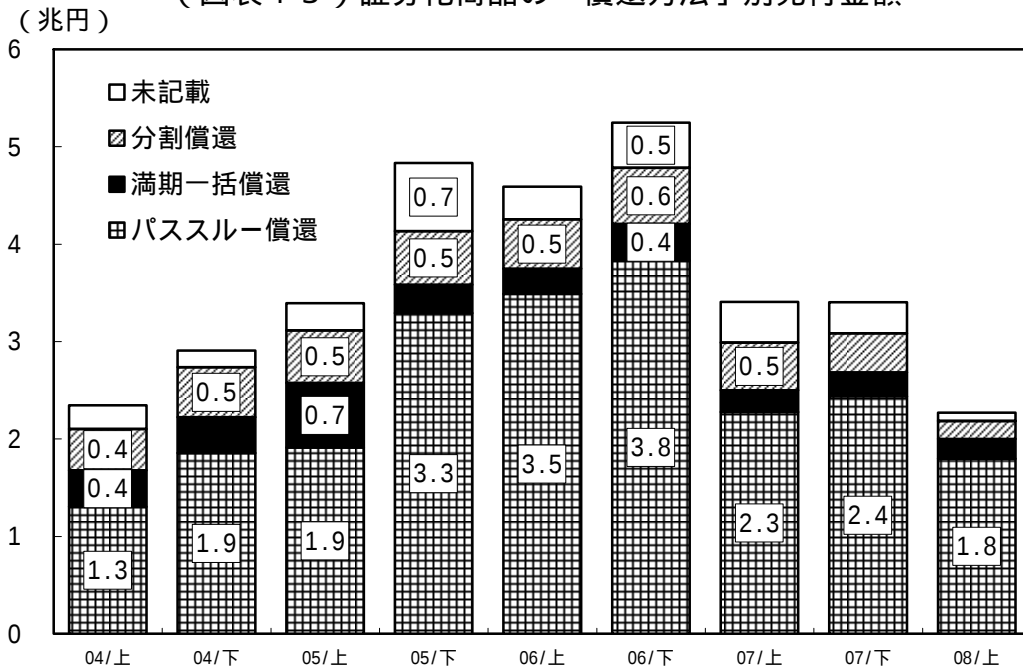
（図表 1 2）証券化商品の「発行形式」別発行金額



4．償還方法別の発行動向

- ・ 2008 年度上半期における証券化商品全体の発行金額（2.3 兆円）を「償還方法」別にみると、「パススルー償還」が 1.8 兆円と全体の 79.2%を占めた（図表 1 3）。

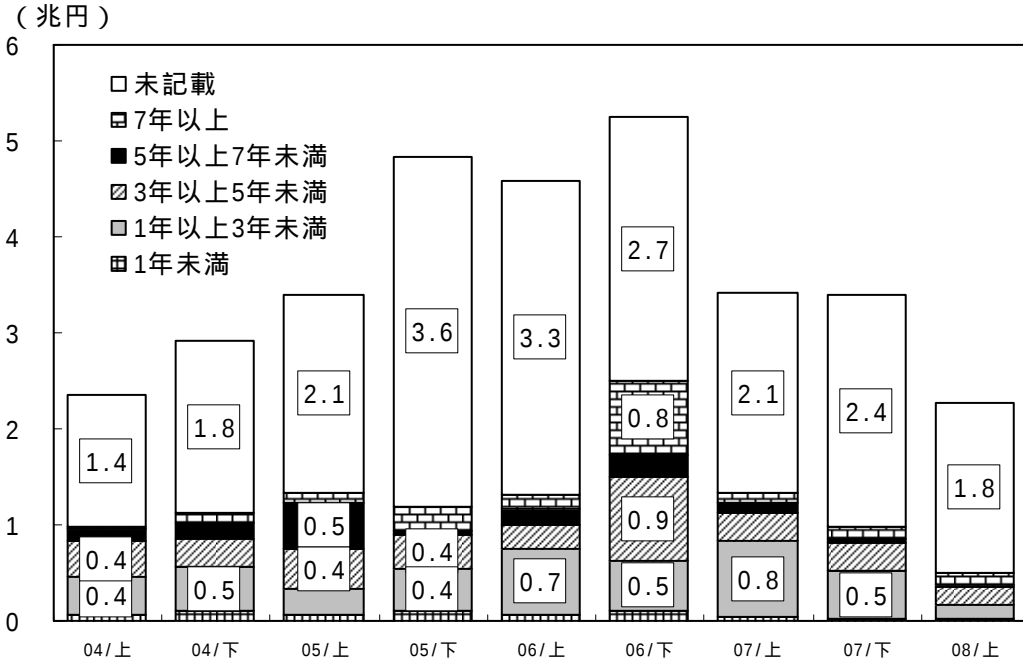
（図表 1 3）証券化商品の「償還方法」別発行金額



5. 予定 / 平均年限別の発行動向

- 2008 年度上半期における証券化商品全体の発行金額（2.3 兆円）を「予定 / 平均年限」別にみると、「未記載」が 1.8 兆円と全体の 77.8% を占めたが、記載のあるなかでは、「3 年以上 5 年未満」が 0.2 兆円、「1 年以上 3 年未満」が 0.1 兆円となった（図表 14）。

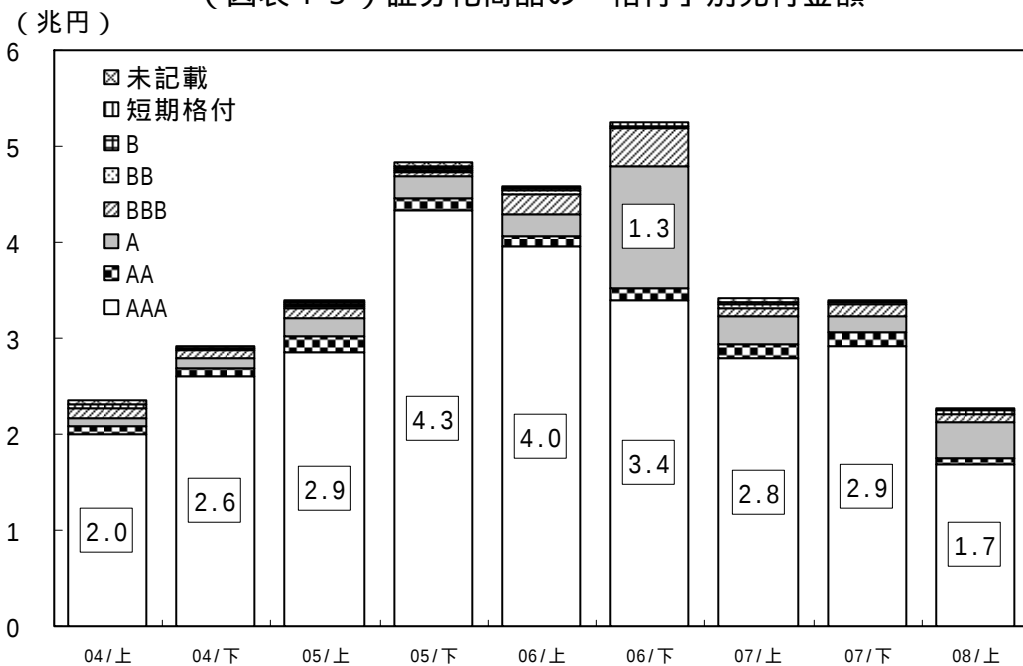
（図表 14）証券化商品の「予定 / 平均年限」別発行金額



6. 格付別の発行動向

- 2008 年度上半期における証券化商品全体の発行金額（2.3 兆円）を「格付」別にみると、「A A A」が 1.7 兆円と全体の 74.4% を占めた（図表 15）。

（図表 15）証券化商品の「格付」別発行金額



以 上